

114
A 4010

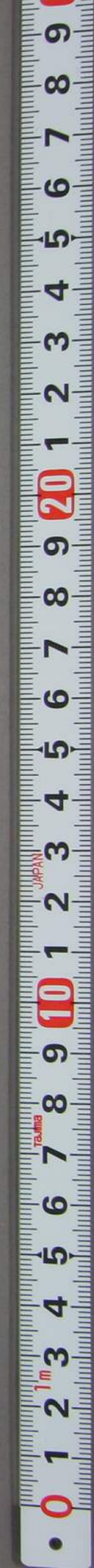


採煤費途ノ意見

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

北海道礦産ノ巨多ナル曩ニ榎本武揚及ヒ米人ライマ
ン、モンルー等採選檢査セシ中ニ就テ其將來大ニ利益
ヲ看ルヘキモノ獨リ石炭ニアリ岩内石炭ハ現今採取
ヲ經ルト雖モ愧内ノ煤田ハ未タ開坑ニ至ラス蓋シ開
拓使創置以來函館札幌間ノ新道開築其他農工ノ業ヲ
始メ最至要ノ舉ニ着手シ未タ石炭堀採費ニ充ツヘキ
十分ノ金額ヲ得ス其岩内ニ於ルモ僅ニ舊法ニ依循ス
ルニ過ス尤モ愧内ノ如キハ業已ニ廣ク識者ニ就テ其
炭質ヲ檢シ開採ノ方法ヲ講究スル茲ニ年アリ且清國
ハ試賣セシモノ粗其聲價ヲ得ルニ至ル今清國ハ石炭

開拓使



ノ需用日ニ其多キヲ加フルヲ以テ自國ノ煤炭採取ニ
熱心シ其舊坑ニ改良ヲ加ヘ猶新坑ヲ開ノ企圖アルニ
際セリ故ニ我カ煤炭清國及魯領等ニ輸出シ又内國ノ
供給ヲ多クシ且廢テラシムルニ從事スルハ最緊切ノ
業ニレテ北海道炭坑ノ開採ニ着手スル一日モ忽諸ニ
付スヘカラサル所以ナリ然レ開採ニ着手スルハ先第
一ニ資本需求ノ道ヲ議定セサルヘカラス茲ニ當使ノ
會計上ヲ精査スルニ曩ニ証券發行ノ填償トシテ明治
十四年即チ定額金ニ至リ金貳百五拾萬円返納スヘキ
モノアリ此金額ハ則チ目下貸附會所ニ附セシムル外
已ニ九年度ヨリ十四年迄毎年若干ヲ除去シテ備置シ
所ノ金額適年増加スルノ計算別記ノ通りナルヲ以テ
此内幌内開坑及岩内ノ改良費ヲ併セ大約金百五拾萬

圓ト假定シ岩内坑ノ改良幌内開坑ノ業十四年迄ニ竣
功ヲ期スルトセハ石連年ノ準備額ヲ以テ逐次其費ニ
充ル決シテ難キニアラヌ尚其有餘ノ額ハ返納ノ期限
内ニ於テ輪回運動セシメ渙業資本風帆船製造費ノ貸
與木材輸出ノ件等凡ソ官民ノ利益ヲ謀ルカ為メ既ニ
其緒ヲ開キタル事業上ニ流用シ而シテ十四年ニ至リ
採煤費百五拾萬圓ノ外ハ之ヲ收束シテ此金額百萬大
藏者ニ返附シ其採煤費ニ係ル金額ハ更ニ十五年ヨリ
炭坑ノ實況ヲ斟酌シ其利益ヲ以テ償却スルノ年限ヲ
定メ無利足ヲ以テ年々純益ヨリ利益金ノ内準備
割別紙計算ノ額ニ載ス額ハ償却スルノ許可アルニ至ラハ國費
多端中此際別途資本金ノ下付ヲ要セスレテ北海道採
煤ノ事業速ニ行ハルヲ得テ其利益ノ浩大ナルヲ又喋々

スルヲ俟タサルナリ

明治十一年一月

開
本
使

一金貳百五拾萬圓

内

金貳拾萬圓

金百六拾萬圓

内

金七萬三千八百拾八圓貳角貳厘

金九萬千八百拾八圓貳角貳厘

金四拾萬九千八百拾八圓貳角貳厘

金四拾萬九千八百拾八圓貳角貳厘

明治四年當使發行證券代償トシテ
十四年大藏省へ返納スルナリ

明治九年六月ヨリ七月ニテ
本支廳送金ノ内現在ノ分

九年度以降歳額ノ内ヨリ
引除備置ノ分

明治九年度分

明治十年度分

明治十一年度分

明治十二年度分

開
本
使

金四拾萬九千八百九十九圓九角

明治十三年度分

金貳拾萬四千九百九十九圓九角

明治十四年度半季分

金七拾萬圓

貸附會元金